

新年のご案内

〒567-0012
茨木市東太田二丁目九一三二
浄土真宗 西福寺
本願寺派
TEL072-633375 FAX072-633375

み光に照らされて、新年を迎えることができます。
皆様には如何お過ごしでしょうか。
新年のご案内を申し上げます。

がん たん え

元旦会

日時 一月 一日(祝) 昼一時
講師 本願寺中央講師

足利孝之師



■「一年の計は元旦にあり」。阿弥陀様の御前で、新年を迎える私の心を見つめたいものです。

■足利先生、兵庫県尼崎市、安養寺住職。教誨師として多くの死刑囚を看取られたご経験から阿弥陀様のお慈悲について分かりやすく熱くお話下さいます。

■朝十時より、修正会(しゅしょうえ)。上野門徒の皆さま、各世帯代表者一名ずつのご参拝をいただきます。

●太田晃氏お別れの会

23年にわたって當山西福寺の総代を務めていただいた太田晃氏が、去る11月29日にご往生されました。ご遺志により、ご親族のみで葬儀が執り行われました。このたび、太田晃氏とご縁のあった方々にご集まりいただき、お茶とお菓子をいただきながら、ご生前のご遺徳を偲びたいと存じます。

●日時...2024年1月28日(日) 昼2時〜4時

●会場...西福寺本堂

●会費...不要

※御香典、御供花は、ご辞退されています。平服でご気軽にお越しください。

発起人 西福寺住職

本願寺御正忌報恩講(ほんがんじごしょうきほうおんこう)

宗祖親鸞聖人、762回忌にあたる御正忌報恩講が、1月9日(土)から16日(日)まで7昼夜にわたり本願寺・御影堂で営まれます。

宗祖のご祥月(しょうつき)命日を縁に営まれる本願寺最大の年中行事です。期間中、全国から僧侶・門信徒が多数参拝し、聖人のご遺徳を偲ぶとともに、浄土真宗の信者として自覚を新たにします。

朝6時からお晨朝、10時から日中法要、昼2時から速夜法要、いずれも直接お越しになれます。ご参拝にあたり費用は特にかかりませんが、受付にて御佛飯料の進納にご協力ください。

なお、住職は1月14日(日)午後2時からの速夜法要に参拝する予定です。

※万一の場合は、住職携帯まで

(090-1071-4881)

毎月28日、昼2時OPEN〜ぶっぶかふー

西福寺へのご懇志はこちらまで。
郵便局(ゆうちょ銀行)
00980-1-165578 西福寺



年忌表 (2024年)

年	日	回数	和	年
一	三	七	三	七
二	三	七	三	七
三	三	七	三	七
四	三	七	三	七
五	三	七	三	七
六	三	七	三	七
七	三	七	三	七
八	三	七	三	七
九	三	七	三	七
十	三	七	三	七

2024年は、上の年に亡くなった方々の年忌に当たりませぬ。盛大であるに越したことはありませんが、ささやかでも真心のこもった法要(法事)を勤めたいものです。

法要は、命日に勤めることが理想ですが、都合で、日・月・年が前後にずれる場合があつても構いません。

法要を勤めるにあつては、まず日程を住職にご相談ください。日取りが決まったら、親戚知人にも通知を出し、前日までにお仏壇をきれいに掃除し、お供物やお花、お香などを買い整え、心をこめて準備いたしましょう。

そのほか、ご不明な点は何なりと住職までお尋ねください。(西福寺: 072-622-3725)

※左の点線部分で切り取って『真宗教団連合法語カレンダー』の台紙に貼ってご活用下さい。
※早い！きれいな！エコ！寺報メール便のお申し込みは、こちらまで sai-fukujii@rumbini.com

三月のご案内

〒567-0012 茨木市東太田二丁目九三二
TEL 076-221-5555 FAX 076-221-5555
浄土真宗 本願寺派 西福寺

春の訪れとともに、ウグイスが「法を聞けよ」と私たちをいざないます。
令和六年三月のご案内を申し上げます。

第三百十回

人生講座

日時 三月十日(日) 昼二時～四時
講師 仏教ライター

末本 弘然 師



■末本(すえもと)先生、七十二歳。池田市、正福寺前住職。生きとし生けるものに対する温かい眼差しから紡ぎ出される言葉の数々に多くの愛読者がおられます。著書に『仏事のイロハ』(本願寺出版社)『インドフォトエッセイ―仏さまに出会う旅』(東方出版)等。

■お誘いあわせの上、ごぞつてお参り下さい。

春季彼岸会

* * *

西福寺仏教婦人会3月の例会は、毎年落語家の桂文福さんご一行をお招きし、彼岸会(ひがんえ)寄席をお楽しみいただいております。誠に残念ながら中止といたします。法要のみ実施。有縁の皆さま、ぜひご参拝ください。

日時: 3月18日(月) 午後2時
場所: 西福寺本堂



このたび「令和6年能登半島地震」における被災地への継続的支援に資するため、本願寺金沢別院内に浄土真宗本願寺派 能登半島地震支援センターを設置いたしました。最新の情報についてはX(旧 Twitter)をご確認ください

浄土真宗本願寺派能登半島地震支援センター
石川県金沢市笠市町 2-47 本願寺金沢別院内
電話 090-2565-5325 / 090-2163-5325
FAX 076-221-6417



- ボランティアについて
活動内容(2024.2.1 現在)
1. 物資搬送 / 2. 片付け作業 / 3. 訪問活動 / 4. センター内での軽作業
※状況に応じて変更いたします
- ボランティア申込について
※活動日までには必ずお住まいの地域の社会福祉協議会においてボランティア保険(天災コース)へご加入ください
※必ず事前に支援センター概要とボランティア活動内容をご確認の上、所定の「ボランティア登録フォーム」に入力。当センターよりご連絡いたします

毎月28日、昼2時OPEN! ふっふふ力!

西福寺へのご懇志はこちらまで。
郵便局(ゆうちょ銀行)
00980-1-165578 西福寺



浄土和讃に聞く ⑤1

◆大寂定にいりたまひ

如来の光顔たへにして
阿難の慧見をみそなはし
問斯慧義とほめたまふ

『浄土和讃』(註釈版566頁)

五十代半ばを迎えられたお釈迦さまは、今後の活動に支障をきたさないよう侍者を希望されました。長老方が次々と申し出られたものの、従弟で当時二十代半ばの阿難尊者を指名されます。身の回りのお世話をし、同時にお釈迦さまの説かれる教えを記憶しておかなければなりません。出家してまだ日の浅い阿難尊者に、そのような大切な役目が務まるものでしょうか。周囲の説得もあって、ついに侍者を引き受けられますが、在家信者からの食事の接待や、衣服の供養、定められた時間以外にお釈迦さまを訪ねるといった侍者として許されうる特権を決して受けないことを誓われるのです。以来、八十歳で入滅されるまでの二十五年間、阿難尊者は、相手の能力や性質に合わせ、自在に法を説かれるお釈迦さまに影のごとく寄り添い、発せられる言葉のみならず、息遣いや仕草、眼差しまでも見過ごさないよう注意を払い、記憶に留めてゆかれるのでした。

お釈迦さまは、阿弥陀仏の悟りの境地に入られながら、逡巡するものがあつたのではないのでしょうか。生にまどい死に怯える愚鈍なるものも必ず救うという究極の慈悲は、後世必ず迫害するものとされるものを生み出します。阿難尊者の一言がなければ、この世に生を受け、仏陀となった意義が永遠に失われていたかもしれませぬ。「多聞第一」と称され、十大弟子の一人にも数えられる阿難尊者の面目躍如と言えるでしょう。

▼釈尊は、大いなる禅定に入って、ひととき美しく輝いていらっしやるそのお姿に気づいた阿難の智慧を見通され、よくすぐれた問いをおこした、とおほめになった。

四月のご案内

〒567-0012 茨木市東太田二丁目九三二
TEL 072-533-5507 FAX 072-533-5575
浄土真宗 本願寺派 西福寺

「いいんだ いいんだ 泣いたって、雨がふるから 花が咲く（親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要記念愛唱歌『みんな花になれ』より）」
令和六年四月のご案内を申し上げます。

第三百十一回

人生講座

日時 四月十四日（日） 昼二時～四時
講師 龍谷大学教授

玉木興慈師

■玉木（たまき）先生、五十四歳。大阪市此花区、浄興寺住職。『教行信証に問う』（永田文昌堂）、『歎異抄のことば』（本願寺出版社）ほか、著書・論文多数。誰もが一度は耳にしたことのあるお名前かもしれません。浄土という究極の安全地帯について、お聴聞させていただきましよう

■お誘いあわせの上、ごぞつてお参り下さい。



▲愛唱歌、こちらから聞けます。

●4月13日は、「花まつり」です。

* * *

『花御堂』を飾り、甘茶をかけてお釈迦さまのご誕生を祝います。あなたも、お友達をさそつて、お参りください。みんな、素直な、良い子になりますように！

■昼2時から法要（15分程度）。夜7時まで、お参りできます。

■先着30名の方には粗供養を進呈。

※昼1時より花まつりパレード実施。

場所：西福寺本堂



花まつりパレード、ご協力よろしくお願いします。

やわらかな春の日差しがふりそそぐ中、お釈迦さまのご誕生を祝う「花まつり」に先立ち、「花まつりパレード」を行います。

新しいいのちの誕生を喜び、子どもたちの健やかな成長を願うのは、親ばかりではありません。この地域に住むすべての人々の願いです。

コースは、西福寺から東太田児童遊園（通称ふね公園）を時計回りに周回する道路で、昼1時頃より約15分間の行程です。なお、雨天の場合は中止いたします。パレード実施中、コース周辺の皆様には大変ご迷惑おかけいたします。何卒、趣旨をご理解いただき、ご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

毎月28日、昼2時OPEN！ふつぷりカブ！

西福寺へのご懇志はこちらまで。
郵便局（ゆうちょ銀行）
00980-1-165578 西福寺



浄土和讃に聞く

52

◆如来興世の本意には

本願真実ひらきてぞ
難値難見とときたまひ
猶霊瑞華としめしける

『浄土和讃』（註釈版566頁）

真実とは、偽に対する言葉です。飢饉や疫病、戦争などによって、ある日を境に通用しなくなるようなことがらや、限られた人間関係や環境でのみ通用すること、人々の健康を損なうような倒錯した価値観に基づくことは、すべて真実とは言えません。

また、真実とは仮に対する言葉です。真実に暗いものに対する教育手段として、一時的に用いられるもので、一度真実に入れば、不要となり廃されるものです。

お釈迦さまは、まず悪しきものと善なるものを示し、諸々の悪をなさず、あらゆる善を行い、自らの心を浄めるよう促されました。これらを実践して、自身の人生の中で真実に目覚めてゆくことを勧められたのです。しかし、これではどれほど強い意志と優れた能力の持ち主でも、いつ終わるとも知れない不確かな人生の中で、多く

のものが志半ばで挫折してゆくこととなります。このようなものに対して、阿弥陀仏の浄土を目指せと言われるのです。浄土往生を願うようになったものには、諸々の善行よりも念仏の優れていることを明かされます。中でも他力の念仏こそが、阿弥陀仏の本願にかなつた真実の行であり、あらゆる時代や世界を越えてはたらく、一切の衆生が善悪・賢愚の隔てなく必ず浄土往生を果たせると顕されたのです。

▼釈尊がこの世にお出ましになった本意は、阿弥陀仏の本願のおこころをお説きになることであり、このような仏のお出ましに会うことは難しく、優曇華の咲くことがきわめてまれであるようなものだと言き示された。